

令和6年10月9日（水）清水地区、11日（金）御影地区「運営委員会」開催

第1回運営委員会を開催、今後へ向けて

4月に町内の全小中学校4校の教職員が集って「推進協議会」を開催し、その後は清水地区と御影地区の「推進委員会」で進めてきています。各地区で話し合いを重ねながら一歩ずつ前に歩み、半年経った今、経過を振り返って成果や今後の取組を確かめ、さらに十勝教育局から担当指導主事をお招きし、アドバイスを頂く「運営委員会」を開催しました。

清水小中一貫教育推進委員会「運営委員会」15：00～清水中学校にて

まず、グランドデザインに示された「目指す姿」「テーマ」「重点目標」をもとに、事務局、そして「学習部」「生活部」「研修部」から今までの取組や進捗状況について報告がありました。全体で確認した後、質問や意見交流に進み、

1 小中一貫教育の分離型の完成形（ゴール、出来上がったイメージ、到達目標）はどんなものなのか？ 2 小中学校同一の研究テーマはどんな形となるのか？ が話題となりました。

1 小中9年間を通して目指したいもの、身に付けたいものを共有すること、2 小中学校は特化したテーマ（教科）になりがちだが、中学校ではそうはならないので「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の到達目標のどこが同じでどこが違うのかなどを切り口として設定するとよいのではないかというアドバイスがありました。

また、小学校の先生は、卒業後子どもたちがどうなっていくか、どうなっているのかという傍観者のになりがちだが、中学校の先生と意見交換・交流を通して小学校時代にこんな学びを、こんな力をつけさせたいと同じスタンス、共通理解を進めることが大切という話もありました。

その他、町の特別支援教育に関わって、もともと小中合同でという行事も開催されているという状況から、これらも小中一貫教育で扱っていいのでは？という意見も出されました。

やはり「目指す資質・能力の設定」と「指導の一貫性」が大切です。最後に、今年度中に、各部で活動内容を再検討することが確認されました。

「きょういく・イッカン」8号

御影小中一貫教育推進委員会「運営委員会」15:00～御影小学校にて

御影地区もまず初めに全体の進捗状況・成果や課題を事務局から、具体的なところは「学習部」「生活部」「研修部」部長から報告して頂き、全体で確認したあとに、協議に移る形で進めました。

「再検討」という話が各部からも出てきて、ある程度出来上がったものについてこれで良いのかとか、今年度の実践を加えてバージョンアップさせていて、今の熱量を大切に進めていっては、という話になりました。再検討するときのポイントとして、（１） 目指す子ども像に立ち返ることが大切、（２） ウェルビーイングに注目しているが「自己有用感」を育める活動がたくさんあるのではないかと、（３） 発達段階に応じて到達目標を設定することでさらにパワーアップするのではないかと、という話にもなりました。

「来年は夏休みのきまりを合同で発行していきたい」「交流の時間をもっと確保したかった」など、今後に向けての話にもなり、進展に大いに期待するところとなりました。

最後に山下教育長からは、「小中一貫教育は魔法の方法ではない」という話から、「小中学校の教職員の更なる交流や共通理解をもとに今後とも宜しくお願いします。教育委員会としてもサポートしていきます。」の言葉で締めくくられました。

来年度、令和7年度から本格実施の予定です。児童・生徒、保護者、そして教職員のために、歩みを進めていきたいと思えます。



運営委員会（左側：清水、右側：御影）のようす

「第2回 運営委員会」は1月28日、清水・御影合同開催です

発行：清水町小中一貫教育推進協議会